

Universal Display社とライセンス契約締結 世界最高レベル(*)の発光効率を有する照明用有機ELパネルの出荷へ

Lumiotech (ルミオテック) 株式会社 (社長: 重永久夫、本社: 山形県米沢市) と米国のユニバーサル・ディスプレイ社 (Universal Display Corporation、以下UDC) はリン光発光技術に関するライセンス契約を締結した。

LumiotechはUDCが持つリン光発光技術に関する特許・ノウハウを利用して、高効率な照明用有機ELパネルを製造・販売することが可能となる。契約期間は2015年12月31日まで。また、LumiotechはUDCと材料売買契約を同時に締結。同社から、量産用の有機EL材料の供与も受ける。

Lumiotechは自社の強みであるマルチフォトン素子技術とUDCのリン光発光技術を組み合わせることにより、高輝度・長寿命で、かつ世界最高レベルの40ルーメン/Wの発光効率を有する照明用有機ELパネルの量産化に向け動き出す。2012年2月より、145mm角サイズ他で電球色タイプの高効率パネルのサンプル出荷を開始する。量産出荷は4月の予定。また、昼白色タイプの高効率パネルの開発も進めており、年内の出荷を目指す。

UDCは照明用途やディスプレイ用途向けに最先端の有機EL技術・材料を開発・供給する世界的なリーディング企業である。同社は1994年に設立。これまでに世界全体で1,200件以上の特許 (審査中のものも含む) を抱え、主にリン光発光技術に関するライセンス事業を展開している。同社は顧客やパートナー企業に対して技術移転や共同開発、オンサイトトレーニングなどを通じた問題解決型のサービスも提供している。

Lumiotechは照明用有機ELパネルの事業性検証会社。三菱重工業、ローム、凸版印刷、三井物産などが出資して2008年5月に発足した世界初の照明用有機ELパネルの専門会社で、これまでトレードオフの関係にあるとされてきた、高輝度化と長寿命化を両立させるマルチフォトン素子技術の開発や、材料の利用効率を格段に高めた高速の大型リニア蒸発源式インライン成膜装置の実現などを受けて、米沢市に量産ラインを構築、昨年1月から照明用有機ELパネルの量産出荷を行ってきた。

UDCのステーブン・アブラムソン社長は、「照明用有機ELパネルで世界をリードするLumiotechと契約できたことは大変喜ばしい。Lumiotechに高効率な照明用有機ELパネルの量産販売を担ってもらうことは、業界の発展にもつながる。UDCとしても、さらなる高効率な照明用有機ELパネルの製品化に向け、引き続き協力していきたい。」と述べている。

また、Lumiotechの重永久夫社長は、「UDCとの協業により、世界最高レベルを誇る照明用有機ELパネルの量産化が可能となった。これは、業界でも画期的なブレイクスルーである。同社とは今後も関係強化を図り、次世代照明のトッププレーヤーとして、その地位を確固たるものにしていきたい。」とコメント。

有機ELパネルは、面発光で極薄・軽量であることや、紫外線を含まず均一でムラのない柔らかい光を実現できること、さらには、水銀など有害物を含まず、省エネ化によるCO₂の削減効果が見込めるなど、白熱球、蛍光灯などの従来型光源やLEDにはない優れた特徴を持ち、次世代の照明用光源として期待されている。加えて、UDCのリン光発光技術を利用すれば、従来の有機ELパネルの4倍の省エネ効果まで見込める。将来的には、透明、フレキシブルといった革新的な有機ELパネルの製品化も可能である。

※量産照明用有機ELパネルにおいて、2011年12月31日現在、Lumiotech株式会社調べ

【問合せ先】

Lumiotech株式会社東京事務所

TEL : 03-5418-6035 / E-mail : lumiotech_info@lumiotech.com

ユニバーサル・ディスプレイ社

TEL : 1-610-228-2123